

診 療

閉経後に Atypical polypoid adenomyoma から発生したと
考えられる子宮体癌の 1 例

久留米大学医学部産婦人科学教室

大田俊一郎	富岡 良仁	平井 伸幸	田中 宏明
村岡 泰典	今石 裕人	大淵 盛夫	藤吉 啓造
牛嶋 公生	杉山 徹	西田 敬	薬師寺道明

Endometrial Adenocarcinoma Probably Arising from Atypical
Polypoid Adenomyoma —A Case Report—

Syunichiro OTA, Yoshito TOMIOKA, Nobuyuki HIRAI, Hiroaki TANAKA,
Yasunori MURAOKA, Hiroto IMAISHI, Morio OBUCHI, Keizo FUJIYOSHI,
Kimio USHIJIMA, Toru SUGIYAMA, Takashi NISHIDA
and Michiaki YAKUSHIJI

Department of Obstetrics and Gynecology, Kurume University School of Medicine, Kurume

Abstract Atypical polypoid adenomyoma (APA) is a rare variant of adenomyoma and is believed to occur in premenopausal women and to follow a benign course. We report a postmenopausal case of the endometrial adenocarcinoma associated with and probably arising from APA. Our case raises the possibility that APA discovered in postmenopausal women may progress to endometrial adenocarcinoma in some cases.

Key words: Atypical polypoid adenomyoma • Endometrial adenocarcinoma

緒 言

Atypical polypoid adenomyoma に、子宮体癌が合併することは、極めて稀であり、本邦ではいまだ報告がない。今回、我々は閉経後に発見された Atypical polypoid adenomyoma に、子宮体癌を合併した症例を経験したので文献的考察を加えて報告する。

症 例

症例は56歳。2回経妊2回経産婦。閉経は50歳。既往歴と家族歴に特記事項はない。

現病歴：子宮癌検診を希望して近医を受診し、子宮頸部細胞診は class I であったが、子宮内膜細胞診で class IV と判定され、1997年10月29日に当科へ紹介され受診した。

初診時所見：内診では、子宮は前傾前屈、鶏卵大で可動性は良好で、両側付属器には、腫瘍を触

知しなかった。膣分泌物や帯下も異常を認めなかった。経膣超音波検査では子宮内腔に径約20 mm の腫瘍を認めた。MRI では、子宮内腔に充満する約30×22×25mm の腫瘍を認め、T1強調画像で筋層と等信号を呈し、T2強調画像では不均一な高信号を呈した(写真1)。ヒステロスコピーにて子宮底部より突出し、表面の一部が乳頭状に増殖した polypoid mass が観察された。再検した子宮内膜細胞診で class V、子宮内膜の掻爬組織診で子宮内膜癌と診断した。1997年12月17日に、単純子宮全摘出術、両側付属器摘出術、骨盤内リンパ節生検を施行し、臨床進行期 Ia と診断された。摘出標本(写真2)では子宮底部から内腔に突出した淡黄色で、約30mm 径の、茎のほとんどないポリープ状の腫瘍を認め、表面の約60%が乳頭状に増殖していた。子宮内膜は萎縮状であり、頸部お

よび両側付属器に異常はなかった。病理組織学的には, polypoid mass は軽度の細胞異型を伴う子宮内膜腺の腺腫性増殖を認めた。間質には子宮内膜間質細胞と紡錘型細胞の増殖を認めた。紡錘型細胞の一部は, SMA 染色や HHH35染色では陽性

で, 平滑筋細胞と診断した。紡錘型細胞と平滑筋細胞には軽度の異型がみられたが核分裂像は強拡大10視野中2個以下であった。以上よりこの polypoid mass は Atypical polypoid adenomyoma と診断された。また, polypoid mass の後方半分には endometrioid adenocarcinoma (Grade 2) を認めた。Atypical polypoid adenomyoma と腺癌には明らかな移行部を認め(写真3, 4), Atypical polypoid adenomyoma より発生した子宮体癌と



写真1 MRI 所見
子宮内の腫瘍は不均一な高信号を呈している。

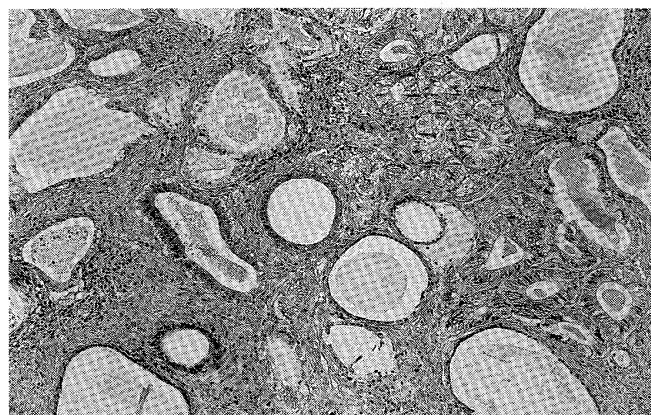


写真3 組織像(HE 像)
左下部は紡錘型の間質細胞に囲まれた異型内膜腺組織。右上の endometrioid adenocarcinoma への移行像がみられる。

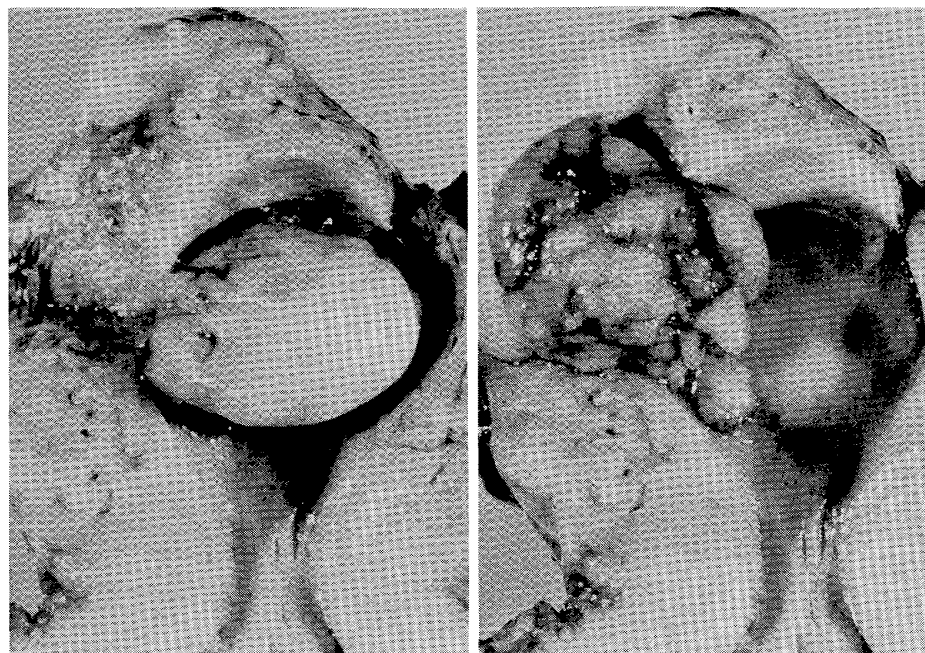


写真2 摘出標本
左側：子宮底部右側より発生した polypoid mass.
右側：表面の約60%に乳頭状増殖を認める。



写真4 組織像(HE 拡大像)

診断した。腫瘍以外の子宮内膜は、萎縮像を呈していた。症例の術後経過は順調で、退院後は外来にて経過観察中であるが再発徴候は認めていない。

考 察

Atypical polypoid adenomyoma は1981年に Mazur が報告¹⁾した、閉経前に好発し、不正性器出血を主な主訴とする、稀な疾患である。肉眼的には子宮内膜より発生するポリープ状の腫瘍で、組織学的所見では、一部に扁平上皮化生を伴う内膜腺の増殖と、間質の平滑筋細胞の増殖を特徴とし、エストロゲンとの関連性が示唆されており、悪性変化はないといわれていた。しかし Longacre et al.²⁾は Atypical polypoid adenomyoma のなかには間質の紡錘型細胞が免疫組織染色により平滑筋細胞の特徴を示さず、Atypical polypoid adenomyofibroma と思われる症例や増殖した内膜腺管のなかに、高度の細胞異型や構造異型をもつ low malignant potential な症例を報告している。今回の症例は、紡錘型細胞の一部にしか、SMA 染色や HHF35 染色で陽性の平滑筋細胞が認められなかったことより、Longacre et al.²⁾のいう、Atypical polypoid adenomyofibroma の範疇に入るものと思われた。さらに近年、Atypical polypoid adenomyoma から発生したと考えられる腺癌が

3 例報告^{3)~5)}されており、このうち 2 例³⁾⁴⁾は閉経後の症例であった。今回の症例では、Atypical polypoid adenomyoma の発生時期は不明であるが、病理組織学的に Atypical polypoid adenomyoma から endometrioid adenocarcinoma への移行像がみられた。また、Atypical polypoid adenomyoma 以外の子宮内膜腺は萎縮しており、閉経後に何らかの因子で Atypical polypoid adenomyoma 内の腺組織が悪性変化を起こした可能性が強く示唆された。

現在、Atypical polypoid adenomyoma は、その病因や病態、予後などにいまだ不明な点が多いものの、閉経前に発症する良性疾患の範疇に入れられており、一般に保存的治療が行われている。しかし、Atypical polypoid adenomyoma のなかには悪性変化を伴うものがあることや、子宮内膜搔爬診では、子宮体癌と誤診される例があること²⁾から、特に閉経後に発見された症例には、より慎重な取り扱いが必要と思われた。

文 献

1. Mazur MT. Atypical polypoid adenomas of the endometrium. *Am J Surg Pathol* 1981; 5: 473-482
2. Longacre TA, Chung MH, Rous RV, Hendrickson MR. Atypical polypoid adenomyofibromas (atypical polypoid adenomyomas) of the uterus. A clinicopathologic study of 55 cases. *Am J Surg Pathol* 1996; 20: 1-20
3. Mittal KR, Peng XC, Wallach RC, Demopoulos RI. Coexistent atypical polypoid adenomyoma and endometrial adenocarcinoma. *Hum Pathol* 1995; 26: 574-576
4. Kay S, Frable WJ, Goplerud DR. Endometrial carcinoma arising in a large polypoid adenomyoma of the uterus. *Int J Gynecol Pathol* 1988; 7: 391-398
5. Fukunaga M, Endo Y, Ushigome S, Ishikawa E. Atypical polypoid adenomyomas of the uterus. *Histopathol* 1995; 27: 35-42

(No. 7959 平10・6・1 受付)